

MOVE

The city driven by people's passion.

行方市市制施行20周年
市勢要覧

笑顔が、
まちを動かす。
なめがた。

湖のきらめき、土の匂い。
動いているのは景色だけではない。
子どもを見守るまなざし、
笑い声を交わす人々。
このまちの時間は、
人の動きとともに進んでいく。
行方は、いつも未来に向かって、
ゆっくりと、確かに動いている。

人が動く。 まちが動く。

When People Move, the City Moves.

CONTENTS

行方市20年の歩み Namegata: 20 Years in Motion	2	インタビュー／まちを動かす声を聞く。 Listening to the Voices that Move the City.	22
湖とともに、生きてきたまち The Story of Namegata	4	育つ、つながる。 行方で支える子育ての毎日。 Supporting Everyday Child-Raising in Namegata.	24
指定文化財が語る、行方の時間 Cultural Heritage of Namegata City	6	予防から始める、動く健康。 行方の暮らしを支える「未病」アクション。 Health and Well-being	26
祭りが動かす、行方の魂。 Festivals That Move the Soul of Namegata	8	暮らしの「動線」を支える。 行方の公共交通改革。 Mobility and Connectivity	27
走る者、支える者、100キロの絆 Ibaraki 100K Ultra Marathon in Rokko	12	行方を想い、行方を動かす人たち。 —なめがた大使 Namegata City Ambassador	28
行方の自然を歩く、感じる。 Walk Through Nature, Feel Namegata	14	行方市の暮らしデータ Namegata City in Numbers	29
日本を代表する、サツマイモの一大産地。 One of Japan's Leading Sweet Potato Producing Regions	16	行方マップ Namegata City Overview Map	32
湖のダイヤモンド、透明な命 — シラウオ Diamond of the Lake — Shirauo	18		
大地と湖が育てる恵み 特産品&ご当地グルメ Local Flavors & Specialties	20		

本市は、霞ヶ浦や北浦に囲まれた豊かな自然と、美しい歴史・文化、人々の温かなつながりが息づく魅力あふれるまちです。この自然は私たちの生活に潤いをもたらし、地域住民としての誇りを感じさせてくれる大切な存在です。さらに、農業や漁業といった営みは、長きにわたり私たちの暮らしを支えてきました。地域の祭りや伝統行事も、住民同士が文化を共有し、心を通わせる貴重な財産として、これからも大切に育んでいくべきものです。

しかし近年、本市を取り巻く環境は大きく変化しており、将来にわたって活力と魅力にあふれ、市民一人一人が安心して暮らせるまちであり続けるためには、地域資源を最大限に生かしつつ、少子高齢化や人口減少といった課題に対応した持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

本市は、昨年9月に市制施行20周年という大きな節目を迎えました。豊かな自然と人のぬくもりが調和した本市を次世代へ継承していくため、この20年間の歩みを振り返り、地域が培ってきた価値を再確認しながら、次の20年に向けた持続可能な未来を市民の皆様と共に描いていきたいと考えています。

結びに、この市勢要覧が本市の現状と魅力をご理解いただく一助となれば幸いです。



行方市長
高須 敏美

The Mayor of Namegata

Toshimi Takasu

2012 平成24年 2011 平成23年 2010 平成22年 2009 平成21年 2008 平成20年 2007 平成19年 2006 平成18年 2005 平成17年

- 9月 麻生町・北浦町・玉造町の3町が合併し、行方市が誕生(人口40770人)
旧役場の3庁舎で開庁式が行われる。
- 9月 行方市誕生後の初代市長に高野貴一氏就任
- 10月 行方市の初代市長に坂本俊彦氏就任
- 11月 行方市文化会館にて「合併市制施行記念式典」を開催
- 1月 すべての庁舎で土日窓口業務をスタート
- 4月 プロサッカーチーム鹿島アントラーズのホームタウンとなる。
- 5月 あそう温泉・白帆の湯の来場者が30万人を突破
- 12月 市の花に「ヤマユリ(山百合)」、市の木に「イチヨウ(銀杏)」、市の鳥に「シラサギ(白鷺)」を制定
- 4月 統合玉造幼稚園が開園
- 4月 観光物産館「こいこい」がオープン
- 4月 玉造中学校新校舎が竣工
- 4月 合併後の初代市長に高野貴一氏就任
- 7月 新議長に平野晋一氏就任
- 7月 全国やまゆりサミット開催
- 7月 デマンド型「ミニバス(乗合タクシー)」運行開始
- 9月 行方市市制施行3周年式典を開催
市民憲章を制定
- 10月 県内市町村初インターネット公売開始
- 11月 旧畑家住宅(麻生藩家老屋敷記念館)が県の有形文化財に指定
- 5月 第15回全国金魚すくい選手権茨城行方大会開催
(水槽の長さ106.3m、ギネスブック更新)
- 10月 行方市長に伊藤孝一氏就任
- 10月 行方市消費生活センター開設
- 3月 茨城空港が開港
- 3月 行方市農業振興センター本館およびふれあい情報館がオープン
- 5月 住民参加型スポーツイベント「チャレンジデー2010」初開催
- 6月 「手賀ふれあいの森」開園
- 3月 東日本大震災発生(行方市震度6弱)
行方市災害対策本部設置
- 3月 行方市無料職業紹介所開設
- 4月 行方市議会議長に貝塚順一氏就任
- 7月 「なめがた安心安全くらしの読本」が、消費者教育教材資料印刷資料部門優秀賞を受賞
- 9月 「なめがた大使」を創設
市にゆかりのある、様々な分野で活躍する方々に委嘱
- 3月 麻生・行方・小高・小貴・三和小学校、麻生・麻生第一中学校開校式
- 4月 統合麻生・統合武田小学校開校式、統合麻生中学校竣工式・開校式
- 4月 平成28年度までの5年間を計画期間とする「行方市総合計画(後期基本計画)」がスタート
- 4月 地元企業と災害時協定を締結
- 4月 新「鹿行大橋・国道354号線北浦バイパス」開通
- 9月 行方市制施行7周年式典を開催
(人口37513人)
「行方市のうた」を発表
- 9月 七色帆引き船操業

2019 平成31年 2018 平成30年 2017 平成29年 2016 平成28年 2015 平成27年 2014 平成26年 2013 平成25年

- 3月 太田・大和第一・大和第三・大和第三小学校開校式
- 3月 行方市マスコットキャラクター「なめりーニコット」誕生
- 4月 天王崎観光交流センター「コテラス」オープン
- 4月 麻生東小学校竣工式・開校式
- 10月 行方市長に鈴木周也氏就任
- 10月 行方市議会議長に高柳孫市郎氏就任
- 2月 玉造西・現原小学校開校式
- 3月 羽生・玉川・玉造・手賀小学校開校式
- 4月 統合玉造小学校開校式
- 4月 統合麻生幼稚園開園
- 11月 第一回なめがたふれあいまつり開催
- 4月 行方市議会議長に鈴木義浩氏就任
- 7月 総合戦略書策定に向けた「なめがた市民100人委員会」設置
- 9月 市制施行10周年を迎える。
- 10月 旧大和第三小学校跡地を活用した「なめがたファーマーズヴィレッジ」オープン
- 3月 「非核平和都市宣言」を行う。
- 3月 津澄・栗田小学校開校式
- 3月 行方市総合戦略書策定
- 4月 北浦小学校開校式
- 4月 石岡市・行方市・小美玉市・茨城町で公共施設の広域利用開始
- 6月 上山鉾田工業団地・麻生市街地において都市計画用途地域の変更
- 10月 防災対応型エリア放送「なめがたエリアテレビ」開局
- 12月 鹿島アントラーズFIFAクラブワールドカップ2016準優勝
- 1月 泉佐野市と「特産品相互取扱協定」締結
- 2月 「なめがたお仕事情報局」開局
- 3月 JAなめがた甘藷部会連絡会第46回日本農業賞大賞受賞
- 10月 JANAなめがた甘藷部会連絡会第56回農林水産祭「天皇杯」受賞
- 10月 市宮路線バス実証実験スタート
- 12月 行方市麻生が全国初の「千年村」に認定
- 3月 「香菜(シヤンサイ)」が茨城県青果物銘柄産地指定
- 3月 なめがたエリアテレビ簡易劇場完成
- 5月 行方市初の地域おこし協力隊着任
- 8月 「行方市マンホールカード」誕生
- 9月 観光物産館「こいこい」リニューアルオープン
- 10月 第26回環境自治体会議「なめがた会議」開催
- 10月 三味塚古墳出土品が国の重要文化財に指定
- 3月 第一回茨城1000ウルトラマラソンin鹿行(ROKKO)開催
- 4月 行方市としてSDGsの理念に基づいた取り組みを開始

Namegata: 20 Years in Motion

行方市20年の歩み

2025 令和7年 2024 令和6年 2023 令和5年 2022 令和4年 2021 令和3年 2020 令和2年 2019 令和元年

- 5月 行方市議会議長に岡田晴雄氏就任
- 6月 東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、モンゴル国のホストタウンに登録
- 8月 第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」開催
- 11月 「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が世界に誇りうるサイクリングロードとしてナショナルサイクルルート制度の指定
- 11月 全国なまざサミットin行方開催
- 11月 中根消防団「第27回全国消防操法大会」優勝
茨城県代表選考会小型ポンプ操法の部」優勝
- 3月 新型コロナウイルス感染症の影響により小・中学校が休校
- 9月 「行方ブランド」ロゴマーク策定
- 9月 市制施行15周年記念事業「出張!なんでも鑑定団in行方」開催
- 10月 なめがたキャンピングイベント「なめキャン」初開催
- 11月 新嘗祭に行方市の米と粟を献穀
- 1月 行方市ECサイト「なめがたさんちの特選マルシェ」開設
- 7月 東京2020オリンピック聖火リレー実施
- 7月 アルゼンチン男子ハンドボールチームが東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた事前練習を実施
- 9月 「霞ヶ浦の帆引船・帆引網漁法の保存活動」が第43回サントリー地域文化賞受賞
- 11月 県内初となる「デジタルガバメント宣言」を行う。
- 8月 行方かんしょブランド推進協議会が国内最大規模のさつまいもイベント「夏のさつまいも博2022」に初参加
- 8月 アメリカンフットボールチーム茨城セイバーズのホームタウンとなる。
- 12月 市内を自転車で巡るイベント「なめチャリ」初開催
- 2月 Namegataフェス&マルシェin北浦の丘開催
- 3月 「行方かんしょ」が地理的表示(GI)保護制度に登録
- 4月 榎本スポーツ交流センターオープン
- 5月 行方市議会議長に宮内守氏就任
- 6月 市内にて「コウノトリのヒナが確認される」。
- 12月 茨城県厚生農業協同組合連合会と「地域医療等に係る連携協力に関する協定」締結
- 3月 「行方市ゼロカーボンシティ宣言」を行う。
- 4月 こども家庭センター、こども発達支援センターオープン
- 5月 プロバスケットボールチーム茨城ロボッツのフレンドリータウンとなる。
- 7月 「霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ」オープン
- 8月 三味塚古墳出土品(未指定遺物)国の重要文化財に追加指定
- 10月 「kasumiterace 霞ヶ浦」オープン
- 10月 行方市食生活改善推進員協議会「令和6年度全国食生活改善大会」第54回全国食生活改善推進員協議会大会厚生労働大臣賞(地区組織)受賞
- 1月 「焼き芋サミットinなめがた」初開催
- 2月 フォーリン共和国のダナオ市が友好交流都市となる。
- 2月 映画『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』で、第15回ロケーションジャパン大賞部門賞「撮影サポート部門」受賞
- 9月 行方市市制施行20周年式典を開催
- 9月 市の制定書体「行方市フォント」を制定
- 10月 行方市長に高須敏美氏就任
- 12月 『霞ヶ浦AIシラウオ』の取り組みが関東農政局「アイスカパー農山漁村(むら)の宝」に選定

【行方の歴史】

湖とともに、 生きてきたまち

はじまり 湖と 人の暮らし

古代、霞ヶ浦・北浦のほとりは「香澄の海」と呼ばれ、行方台地の上には古墳が築かれた。三味塚古墳(市指定史跡)は、5世紀にこの地を治めた豪族の力を今に伝える。水辺では漁が、台地では農業が始まり、「水と土のまち」の原型ができた。

中世 港と 信仰の時代

平安から鎌倉、戦国期にかけて、行方は水運の要衝として発展。西蓮寺(仁王門、相輪櫓は国指定重要文化財)や大麻神社、化蘇沼稲荷神社など、信仰の中心が点在し、人々の心のよりどころとなった。湖を行き交う舟が物資と文化を運び、まちは活気づいた。

近世 麻生藩と 北浦の往来

江戸時代には麻生藩が置かれ、霞ヶ浦や北浦の舟運で米・魚・木材が江戸へと送られた。このころ行方の暮らしは湖と一体だった。明治以降は農業・漁業の近代化が進み、レンコンやサツマイモなどの名産が育つ。学校や鉄道、道路整備によってまちは結ばれ、人々の行き来が活発になっていく。

現代 3町の合併から 新しい行方へ

2005年、麻生町・北浦町・玉造町が合併し「行方市」が誕生。自然と共にある産業・文化・暮らしを未来へつなぐため、市民の新しい動きが始まった。湖畔の風景に、今日も「生きて動く歴史」が息づいている。



麻生藩 家老屋敷記念館

安政4年(1857年)再建
主屋、薬医門などが現存し、
当時の武家屋敷構造をよく残す。
県指定有形文化財

The Story of Namegata

指定文化財が語る、 行方の時間

Cultural Heritage of Namegata City

行方の文化は、保管するだけでなく使い続けて守られている。例えば西蓮寺の仁王門と相輪櫓は国指定重要文化財。県指定では、萬福寺の仁王門阿弥陀堂、麻生藩家老屋敷記念館など。三味塚古墳は市指定史跡。古墳時代前期の前方後円墳。霞ヶ浦沿岸の首長墓とされ、地域の古代史を今に伝える。その他、市指定には麻生祇園馬出し祭り（無形民俗文化財）のように、今も毎夏に実施される祭礼などが並ぶ。つまり「文化財＝過去」ではない。掃き清める手、修復に集う保存会、祭礼に参加する子どもたち―地域の手が動く限り、文化は現在形で続いていく。

さいれんじ
西蓮寺 仁王門
天文12年（1543年）建立
国指定重要文化財
室町末期の技を伝える楼門。
寛政年間に一階建てへ改修、
安政7年（1860年）に
現在地へ移された。
三間二戸寄棟造
（さんげんいっごよせむねづくり）、
銅板葺（どうばんぶき）の屋根、
幕股（かえるまた）など
細部に当時の職人技が息づく。



まんぶくじ
萬福寺 仁王門
天正6年（1578年）建立
享保年間（1716～1736年）に現在地へ。
県指定有形文化財



おおやまもり おおぼけごうし
大山守 大場家郷土屋敷
寛文期（1661～1672年）の建築
県指定有形文化財



さいれんじ そうりんとう
西蓮寺 相輪櫓
弘安10年（1287年）建立
国指定重要文化財



祭りが動かす、 行方の魂。

一年を通して、
行方のまちは祭りの熱で動き出す。
神輿と馬が勇ましく戦い、
子どもたちが太鼓を叩き、
夜空には提灯の灯りが揺れる。
古くから受け継がれてきた
祈りと歓喜の瞬間は、
湖の風とともに人の心を震わせる。
それは単なる行事ではなく、
このまちが生きている証。

山田祇園祭り

開催時期／毎年7月最終土・日曜日

山田八坂神社で神事後、
白い下帯の若者およそ30人が神輿殿へ駆け込み、
木製の扉を蹴破って神輿を外へ引き出す。
そこから担がれた神輿は、
大きく“もみ”ながら北浦湖岸の芸津宇田河岸へ進み、
おはまお
御浜降り(湖中のみこし振り)を行う。
神輿が激しく暴れるほど
豊作・無病息災につながると伝えられ、
夜遅くまで山車の引き回しが続く、
勇壮な夏祭りだ。

Festivals That Move
the Soul of Namegata

大宮神社例大祭

開催時期／毎年5月4日・5日

玉造地区の春を告げるのが、大宮神社の例大祭。この祭礼は玉造城主の時代から続くもので、毎年5月4日・5日に執り行われる。五穀豊穡と地域の安寧を祈願し、行列は御輿や大鉦、猿田彦が町を巡る。山車も街中を引き回し、山車の上ではお囃子に合わせて獅子や狐、おかめなどが舞踊を披露する。祭りの期間中、人々は露店や見物を楽しみながら春の訪れを味わう。春と地域のつながりを感じる玉造の伝統行事だ。

麻生祇園馬出し祭り

開催時期／毎年7月土・日曜日

行方の夏を代表する、市指定無形民俗文化財の祭り。麻生の八坂神社で行われる神事のもち、5色に飾られた馬と神輿が境内で向かい合う。スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治した神話を再現する儀式で、馬はオロチ、神輿はスサノオを象徴する。神主の合図とともに馬が一気に駆け出し、担ぎ手が神輿を高々と掲げて突進する。砂煙のなかで緊張と歓声が重なり、その迫力を撮ろうと全国からカメラマンが集まる。



Festivals Bring Smiles to Namegata.

けそめま 化蘇沼稻荷神社例大祭

開催時期／毎年8月下旬

「関取稻荷」として親しまれる化蘇沼稻荷神社。境内には立派な土俵が設けられ、毎年8月下旬の夏祭りには豊作を祈願する奉納相撲が行われる。まわしを締めた若者たちが土俵に上がり、地元力士や子ども相撲も加わる。取組のたびに観客の声が響き、勝敗よりも健やかな一年を願う心が会場を包む。長く続くこの神事は、地域に根づいた「祈りの形」として、今も夏の風物詩になっている。





ROKKO
茨城 100k ウルトラマラソン in 鹿行

開催時期 / 毎年3月上旬

Ibaraki 100k Ultra Marathon in Rokko

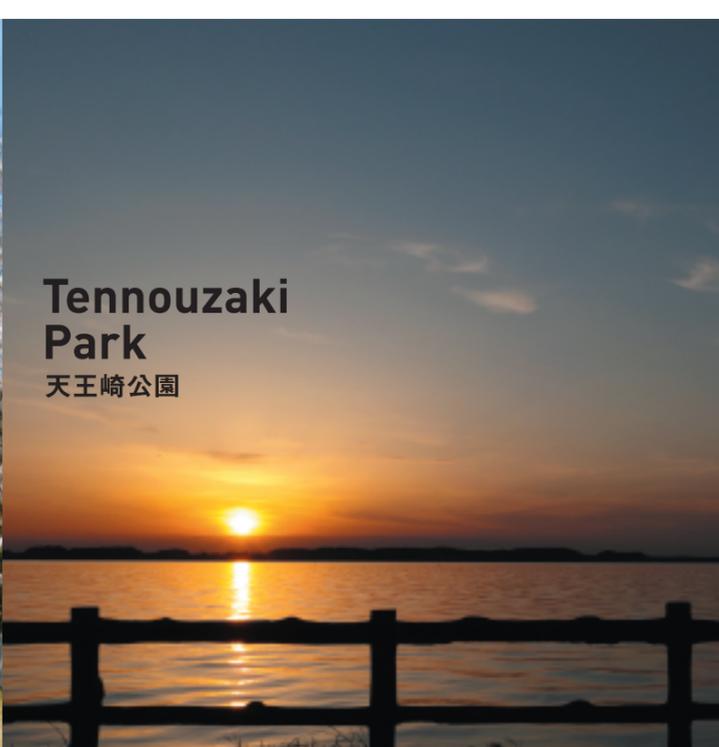
走る者、
支える者、
100キロの絆

Runners and Supporters —
United by 100 Kilometers

夜明け前、行方市文化会館をスタートしたランナーたちが霞ヶ浦の堤防を駆け抜ける。100キロという距離を、鹿行の百景を楽しみながら制限時間14時間で走り切る。沿道にはボランティア200人以上が立ち、水やバナナを差し出す。走者が通るたびに「がんばれ！」の声が連鎖し、まち全体が応援団になる。ゴールした瞬間、涙と拍手が交じる。人が走る。まちが動く。



羽黒山公園
**Haguroyama
Park**



**Tennouzaki
Park**
天王崎公園

霞ヶ浦と北浦、二つの湖に抱かれた行方は、風の通り道にある。光が季節で変わり、鳥が渡り、星が輝く。
霞ヶ浦の東岸にある天王崎公園は県内屈指の夕日スポット。湖面に沈む太陽が黄金の道を描き、カメラを構える人や散歩する家族でにぎわう。
春は羽黒山公園の高台が桜色に染まり、丘の上から霞ヶ浦を一望。弁当を広げる家族の笑顔が春風に溶ける。
秋になると西蓮寺の大イチョウが黄金に輝き、樹齢千年の木の下で風が葉を揺らす音が時を刻む。
冬には北浦や羽生の干拓地にコハクチョウやマガモが飛来し、朝もやの中舞い立つ姿が水面を揺らす。
そして夜、行方の空は満天の星に包まれる。北浦湖畔や小高い丘では天の川が肉眼で見え、湖面に映る星々が静かにまたたく。

**霞ヶ浦広域
「サイクルーズ」
船と自転車で
湖の旅をつなぐ**

船に自転車を積み込み、霞ヶ浦を横断する。それが行方発の体験型ツアー「サイクルーズ」だ。玉造棧橋から出航し、潮来や土浦へ。デッキでは風を受けながら湖を滑り、港を降りるとそのまま堤防を走る。ペダルを踏むごとに景色が変わり、漁村や田園の暮らしが近づく。



**The Ancient Ginkgo Tree
at Sairen-ji Temple**

西蓮寺の大イチョウ



**Walk Through
Nature,
Feel Namegata**

**行方
自然の
歩く、を
感じる。**

日本を代表する、サツマイモの一大産地。

One of Japan's Leading Sweet Potato Producing Regions

霞ヶ浦と北浦の間に広がる行方の台地は、全国でも有数のサツマイモ産地。水はけのよい火山灰土壌と、昼夜の寒暖差が作る自然条件が、蜜のように甘く、しっとりとした芋を育てる。栽培面積と出荷量はいずれも茨城県内トップクラスで、茨城は全国2位の生産県。その中心にある行方は、まさに本場と呼ぶにふさわしい。主力品種は「紅はるか」「シルクスイート」「紅まさり」。収穫後に定温で熟成させることで甘みが増し、焼き芋になると蜜があふれる。市内には農家直営店や加工所が点在し、年間2万トンを超える出荷量を誇る。2023年には地域ブランド「行方かんしょ」が地理的表示(GI)登録された。今行方は、産地の枠を超え、「焼き芋の聖地」として注目を集めている。



芋で動く、行方の発信力



行方市さつまいも課 十焼き芋サミット

「焼き芋でまちを元気に」——そんな声から始まったプロジェクト「行方市さつまいも課」。農家や企業と手を組み、SNSやイベントで行方のブランド芋を全国へ発信するほか「全国焼き芋サミット」を開催した。20種を超える焼き芋が並び、香ばしい湯気と甘い香りが立ち込める。子どもはほおぼり、大人は品種を語る。焼き芋を通じて人がつながり、行方が動く。市民の情熱と遊び心が、今このまちを「日本「熱い芋の都」へと押し上げている。



道の駅たまつくり／ 観光物産館こいこい

湖畔に立つ行方の玄関口。地元のサツマイモを使ったスイーツや総菜が並び、季節ごとの特産品も豊富。観光客にも市民にも愛される交流の拠点。
◎〒311-3512 茨城県行方市玉造甲1963-5



らぼっぼ なめがたファーマーズヴィレッジ

行方のサツマイモ文化を体験できる複合施設。焼き芋の製法や歴史を学べるミュージアムを中心に、農園・工場・カフェが一体となった「芋の聖地」。
◎〒311-3880 茨城県行方市宇崎1561



行方で味わう、 本場の焼き芋。

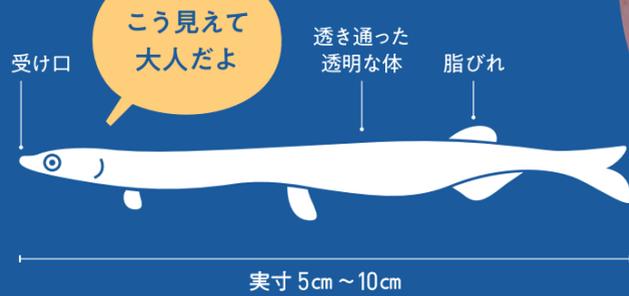
湖のダイヤモンド、 透明な命—— シラウオ

夜明けの霞ヶ浦に漁船の灯が浮かぶ。エンジン音とともに網が沈み、静かな湖面を引いていく。狙うのは、わずか数センチの透明な魚——シラウオ。動力船の後ろに細長い網を引く「トロール漁」で、朝のうちに何度も往復する。獲れたばかりのシラウオは、すぐに氷水で締められ、港に着くころにはまるでガラス細工のような透明度を保っている。漁師が「これが命なんだ」と言うのは、鮮度こそが味の決め手だからだ。氷の上に盛りられたその姿は、冬の陽射しを透かす湖そのものを透かす湖そのもの。行方の水と人の手が織りなす季節の味覚だ。



Diamond of the Lake — Shirauo

シラウオは「シラス」や「シロウオ」とは別物で、シラウオ科に属する魚で小さいながらも立派な成魚だ。



生シラウオ
カルパッチョ



シラウオと
パクチーの
かき揚げ

シラウオをいただく。

霞ヶ浦を代表する味覚、シラウオ。透明に輝くその姿は、まさに湖の宝石だ。身はしっかりといていながら骨がやわらかく、生ではぷりっとした歯ごたえがある。成長が早く、季節ごとに大きさや味が少しずつ変わるのも楽しみのひとつ。淡い甘みのあとに、ほのかな苦みが残る。火を通すとふんわりとした口当たりになり、どんな料理にもよく合う。新鮮な生シラウオは、まず生姜醤油や酢味噌で。湖の恵みそのものの味わいが、舌に静かに広がっていく。

特産品 & 当地グルメ

大地と湖が育てる恵み



行方バーガー

霞ヶ浦産のナマズやコイを使ったパティが主役。地元食材で作る行方のご当地バーガー。

コイの旨煮

霞ヶ浦で育ったコイを、砂糖と醤油でじっくり煮込む。甘じょっぱさが懐かしい伝統の味。



おいもパイ

行方産サツマイモをたっぷり使ったパイ菓子。ほくほくとした甘さがどこか懐かしい味。



なめがたさんちの干しいも 紅はるか

行方産「紅はるか」をていねいに干して甘みを凝縮。自然の甘さが口いっぱいに広がる逸品。

焼き芋とバター

行方産サツマイモを焼き芋にし、カルピス特撰バターのコクを加えた濃厚な甘みのひと品。



なめがたハニー (百花蜜)

ひゃっかみつ

行方の自然が育てた百花蜜。やさしい香りとすっきりした甘さで、料理にもよく合う。



トマト

日照時間が長く、昼夜の寒暖差が大きい気候を活かして栽培。甘みと酸味のバランスが良く、観光直売所でも人気。



レンコン

霞ヶ浦沿岸の粘土質土壌で育つ東日本有数の産地。水圧で掘り上げる“水掘り”で傷を防ぎ、シャキッとした食感と粘りが特長。



セリ

北浦流域の清らかな水を使い、根まで香り高く育つ。冬から春の風物詩として、首都圏の市場にも多く出荷されている。



みず菜

やわらかい葉とみずみずしい茎が特徴。行方が関東に広めたといわれるほど生産が盛んで、冬場の主要出荷品となっている。



わさび菜

葉のフリルと爽やかな辛味が特徴。ハウス栽培により年間を通して出荷される。行方では若手農家による生産も増加中。



チンゲンサイ

施設栽培が進み、一年を通して安定出荷。カルシウムやミネラルが豊富で、県内外のスーパーや給食にも多く届けられる。



エシャレット

らっきょうを軟白栽培した香味野菜。春先に出荷のピークを迎え、香りが良く辛味がやわらかい。行方は県内屈指の産地。



イチゴ

冬から春にかけてハウスで育てられ、高糖度の果実が自慢。観光いちご園も多く、採れたてを味わう楽しみがある。



シラウオ

秋から冬にかけて旬を迎える湖の小魚。透き通る身とほろ苦さが特長で、かき揚げや天ぷらに最適。



豚肉

きめ細かな肉質と甘みのある脂が特長で、さまざまな料理でおいしく味わえる。



コイ

霞ヶ浦の伝統的な魚。脂のりながらもあっさりした味わいで、あらいや旨煮が定番。



なめ天

行方産ナマズのすり身に野菜を合わせ、レンコンに挟んで揚げた名物。シソ味噌・紅生姜・カレーの3種の味が楽しめる。

ルミナスクイーン

行方産ミルククイーンとコシヒカリを黄金比で配合。甘み・香り・つや・コシのバランスが整ったブレンド米。



本格芋焼酎 行方の紫福

行方産紫芋「ふくむらさき」を使った、香り豊かでコクのある本格芋焼酎。



本格芋焼酎 行方の紅勝

行方産サツマイモ「紅まさり」を使用。まるやかな香りと深い甘みが広がる本格芋焼酎。

Local Flavors & Specialties

1 INTERVIEW

ぬか が みお
額賀 滯氏
なめがた大使・小説家

何でもない風景が、
私にしか書けないものだった。

行方市を舞台に作品を書き始めたのは、いつ頃からですか。

額賀 大学進学で東京に出て、創作活動を本格的に始めてからです。ゼミの先生に「地方から来た人は、自分の地元を書いてみたらいい」と言われて、自分では気づいていなくても、その人にしか出ない景色や空気があると、書いてみると「これは他の人には書けないかもしれない」と思えました。結果も少しずつ出て、卒業制作で学部長賞をもらった作品がデビューにつながりました。

東京で暮らすようになって、行方市との関係はどう変わりましたか。

額賀 距離感がはっきりした気がします。近いけれど遠い。日帰りで帰れるからこそ簡単に戻れてしまうし、だからこそ踏み張らなきゃいけない感覚もある。その曖昧さが、創作活動の視点になっていました。

パーティなど人が集まる場で、行方出身だと話すこともあるそうですね。

額賀 あります。名刺交換の流れで「どこ出身ですか？」と聞かれて、「茨城の行方市です」と話すと、ほぼ必ず「それどこ？」って(笑)。地図を出して説明することも多いです。でも一度覚えてもらうと、次に会ったとき「茨城のあの辺の作

家さんですよ」と言われることがあって、それだけでも、地元の名前が人の記憶に残るのはうれしいですね。

食べ物についても印象的な話がありますね。

額賀 東京で一人暮らしを始めて、お米を炊いたときの衝撃は忘れられません。実家のお米や野菜、特にサツマイモがどれだけおいしかったか、初めてわかりました。地元では当たり前すぎて気づかなかったけれども、今はレンコンも、ナマズも、コイもおいしいと思える。行方の「日常の食」は、本当に豊かです。

行方市の人たちは、伝えたいことはありますか。

額賀 人口が減っても、どう幸福でいられるか、だと思います。行方には、あたりまえの日常にいいものがたくさんある。外に出たからこそ、それを言葉にして伝え続けたいですね。



Listening to the Voices that Move the City.

まちを動かす声を聞く。

2 INTERVIEW

かね た とみ お
金田 富夫氏
なめがたしおさい農業協同組合
代表理事組合長

サツマイモの価値は、
まだ隠れていた。

行方市のサツマイモ戦略は、どのように始まったのでしょうか。

金田 始まりは本当に偶然なんです。2003年頃、芽が出て市場に出せない芋を冷蔵庫に入れて、2か月ほど置いてみたんです。それを焼いて子どもたちのサッカー大会で出したら、「これ、うまいな」って。でんぶんが糖に変わっていた。そこから「芋は貯蔵で変わる」と確信しました。

そこから「焼き芋戦略」が本格化した？

金田 ええ。焼き芋戦略当初、売上は約12億円でしたが、今は約50億円規模になっています。市の支援も受けながら貯蔵施設を整備し、付加価値を高めました。それまでは色や形が評価基準でしたが、私は「味を価格に反映させたい」と思いました。本物の焼き芋をやろう、と。

行方市の土地の力も大きいですね。

金田 そうですね。ここは、霞ヶ浦と北浦に囲まれた傾斜地で、水はけがいい。雨がたまるらず、根が健やかに育つ環境がそろっている。この土地だからこそ糖度が38度まで上がります。他の産地も私たちの取り組みを真似しましたが、同じ数字にならずにやめていきました。行方のこの地形そのものが最大の強みであり、一番の財産です。

焼き芋は、もはやブームではないと。

金田 「文化」ですね。芋の潜在能力がようやく評価されてきました。フランスでミシュラン三つ星クラスのパティシエに食べてもらった。「持ってきた芋を全部くれ」と言われました。「おいしい」という味覚は世界共通です。また、そのときのレシピを安定させたいという要望から、冷凍焼き芋が生まれ、現在のスイーツへの展開にも広がっていったわけです。

海外展開も本格化していますね。

金田 今はカナダを中心に、北米への輸出に動き始めています。そのときに大事なものは、「日本のスイートポテト」ではなく、「日本の中でもトップブランドの行方産」として売ること。どこで、どんな土地で育った芋なのかを理解してもらえよう、背景やストーリーも含めて一緒に届けていきたいと思っています。その取り組みの一つとして、「行方かんしょ」

は地理的表示

(GI)保護制度に登録されました。

積み重ねてきた取り組みが、国に認められた証です。味だけでなく、土地そのものの価値を伝えながら、世界に通用するブランドとして育てていきたいですね。

Tomio Kaneta

なめがたしおさい農業協同組合 代表理事組合長。
営農経済部長、代表理事専務を経て2025年から現職。
葉タバコ産地からの転換期に、
焼き芋を中心とした「サツマイモ戦略」を主導し、
貯蔵・加工・販売まで一体化した独自のマーケティングを展開。
若手・女性の育成など、行方農業の次世代づくりに取り組む。



Mio Nukaga

行方市麻生地区出身の小説家。日本大学芸術学部文芸学科卒。
2015年『ウインドノーツ』で松本清張賞、
『ヒトリコ』で小学館文庫小説賞を受賞しデビュー。
『タスキメシ』『風に恋う』『転職の魔王様』など、
青春・スポーツ・仕事を描く作品で支持を得る。
2024年から「なめがた大使」として故郷の魅力発信にも取り組む。

湖と田畑に囲まれた行方市は、「暮らしのなかで子育てができるまち」。2025年度からは0〜2歳児の保育料が独自に無償化され、3〜5歳も国の制度で負担がない。経済的な安心が、親たちの笑顔を柔らかくしている。市内には、子どもを遊ばせながら親同士が自然に会話できる「子育て広場」があり、園庭の開放や小さなイベントが、日々の子育てを支える。急な仕事や通院のときも「子育てサポート事業」が預かりや送迎を手助けし、孤立しがちな子育てにゆるやかなつながりを生む。赤ちゃんが生まれると誕生祝金が贈られ、入学の節目には「行方市入学時等支援金」が届く。制度と人の温もりが重なり合うこのまちでは、子どもたちが風に吹かれ、土に触れながらのびのびと育っていく。

育つ、つながる。 行方で支える子育ての毎日。

Supporting Everyday
Child-Raising in Namegata.



予防から始める、動く健康。
 行方の暮らしを支える
 「未病」アクション。



Health and Well-being



行方市が策定した「第2次行方市健康づくり計画」では、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「こころの健康・休養」「歯・口腔」「たばこ・飲酒」「健康の維持・増進」の6分野を軸に、10年先を見据えた行動目標を掲げている。日常の動きを増やす取り組みとして、湖岸サイクリングやウォーキングを推進し、地域に根ざした健康づくりを展開。栄養面では、地元野菜を使った学校給食や食生活改善推進員の活動が広がる。また「シルバリーハビリ体操教室」は、多くの高齢者が参加し、自宅でも続けられる体操として好評だ。障がいのある人がスポーツを楽しめる「行方市障がい者スポーツ大会」も開催され、年齢や立場を超えて体を動かす文化が根づいている。さらに、市は筑波大学や鹿島アントラーズスポーツクリニックと連携し、運動器検診や健康講座を実施。病院に頼る前に、自ら体を動かして守る—そんな「行方らしい予防の形」が着実に広がっている。

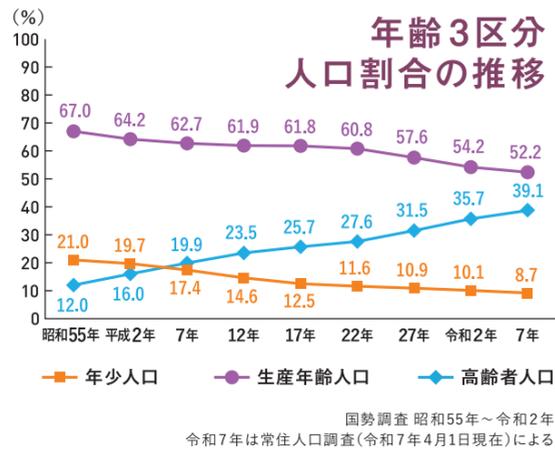
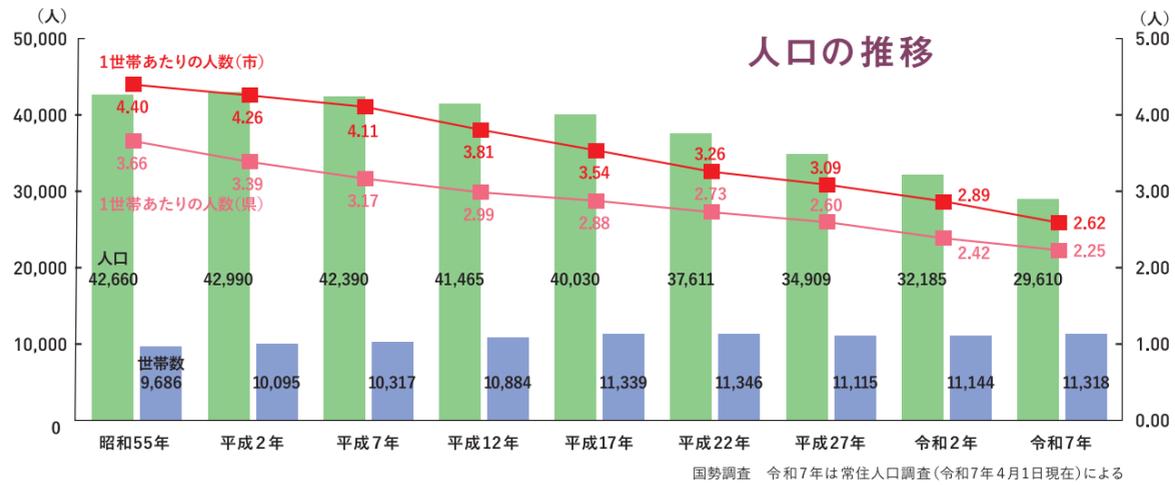
行方市では、2021年に「行方市地域公共交通計画」を策定し、持続可能な交通体系の構築を急務と位置づけている。その中でも特徴的なのが、デマンド型乗合タクシー（コミュニティバス）だ。2008年から導入されてきたが、近年ではスマホアプリによる予約や定時化する運行時間の見直しにより、休日・夜間の移動手段として利用が増えてきている。また広域連携バス「霞ヶ浦広域バス」や「神宮あやめ白帆ライン」は、市外との移動や通学・通学の利便性を高

め、まちを「広くつなぐ」役割を果たしている。こうした取り組みは、ただバスを走らせるだけではなく、「いつでも、どこでも、誰でも移動できる」環境づくりを目指しており、住民の暮らしを支える「動きのインフラ」になっている。車を持たない高齢者や障がいのある人の日常移動も視野に、地域公共交通の再編はまさに「まちが動く」ための一歩だ。行方市の交通改革は、暮らしを支える土台を揺るがずに変えていく。

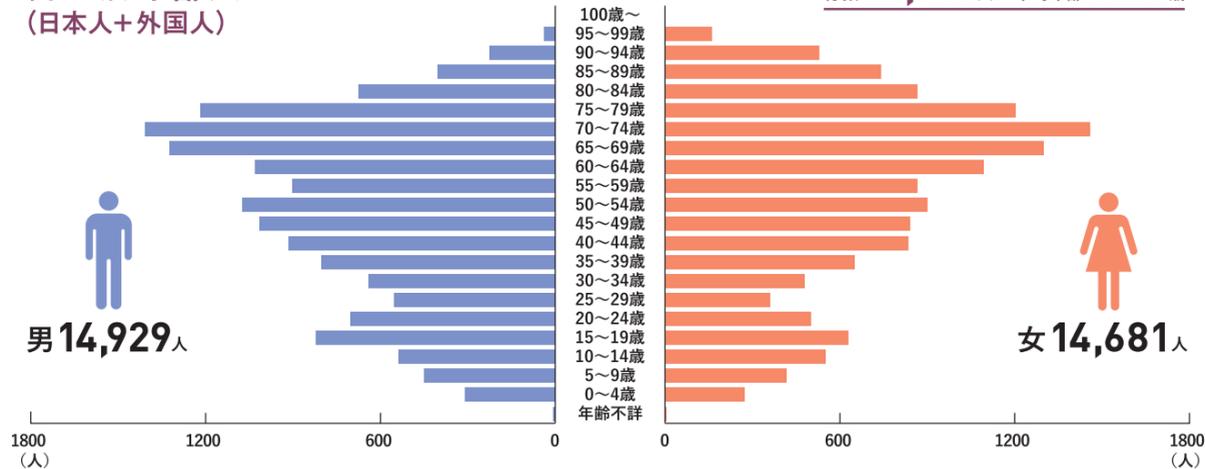
Mobility and Connectivity



暮らしの「動線」を支える。
 行方の公共交通改革。



男女別年齢人口 (日本人+外国人)



Mitsue Kobayashi

小林 光恵

旧玉造町出身の作家。看護師経験を生かし医療・暮らしを綴る。「行方帰省メン」連載で地元の味と記憶を発信。

行方で生まれ、全国や世界の舞台上で活躍する人たちがいる。作家、俳優、スポーツ選手、学者、芸術家—それぞれの道で培った力を、今度は故郷のために。なめがた大使は、行方の魅力を語り、次の世代へとつなげていく“ふるさとのアンバサダー”だ。

行方を想い、行方を動かす人たちが。

なめがた大使

Namegata City Ambassador

Tatsuro Dekune

出久根 達郎

旧北浦町出身の小説家。直木賞・芸術選奨など受賞多数。古書店員の経験を糧に、江戸情緒と本の世界を描き続ける。

Hiromi Nagasaku

永作 博美

旧麻生町出身の俳優。映画・TV・舞台上で活躍、『八日目の蝉』など受賞歴多数。地元の魅力为全国へ届ける顔。

Unpo Hanawa

埴 雲峰

旧北浦町出身の書家。内閣総理大臣賞ほか受賞、各地で教壇を主宰。ふるさと校歌や碑文の揮毫で地域に刻む。

Mitsuhiko Minowa

箕輪 光博

旧麻生町出身の林政学者。東京大学などで研究・教育に尽力。持続可能な森林利用の理論で国内外から高評価。

Hideaki Ozawa

小澤 英明

旧北浦町出身の元Jリーガー。鹿島ほかでプレー、海外挑戦も。現在はアカデミー運営などスポーツ普及に注力。

Kan Komaki

小牧 幹

旧麻生町出身の洋画家。日展入選・特選、国内外で個展多数。人と風景の色を重ね、土地の記憶をキャンバスに刻む。

Masaki Narazaki

奈良崎 正明

旧麻生町出身の歌手。ラジオや全国公演で活動を継続。伸びやかな歌声で、ふるさとも元気を届ける。

Norio Fujishiro

藤代 範雄

玉造地区でデザイン事務所を経営。国際広告賞ほか受賞多数。七色帆引き船や地域の口ゴ制作など市のPRにも貢献。

Mio Nukaga

額賀 滯

旧麻生町出身の小説家。松本清張賞受賞作『ウインドノーツ』ほか。物語を通じて行方の空気を新しい世代へ。

Akemi Okazato

岡里 明美

旧麻生町出身、元女子バスケット日本代表・元WリーグHC。全国でクリニックや講演を展開し、体を動かす喜びを広げる。

Kazumichi Nakata

仲田 一途

旧玉造町出身の料理人・経営者。仏の技を活かしたラーメン店「麺や一途」などを展開。食の力で郷里を応援。

Fujio Yokoyama

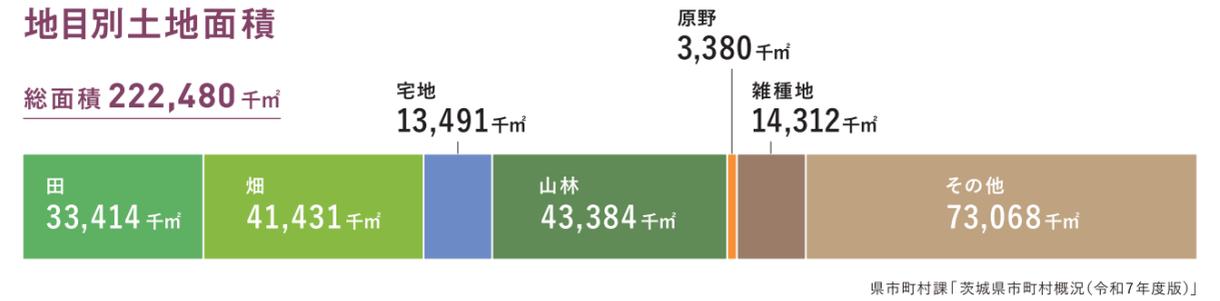
横山 藤雄

旧麻生町出身の経営者。飲食・ウェディング等を多店舗展開。行方産焼き芋ブランド発信などシティプロモーションにも参画。

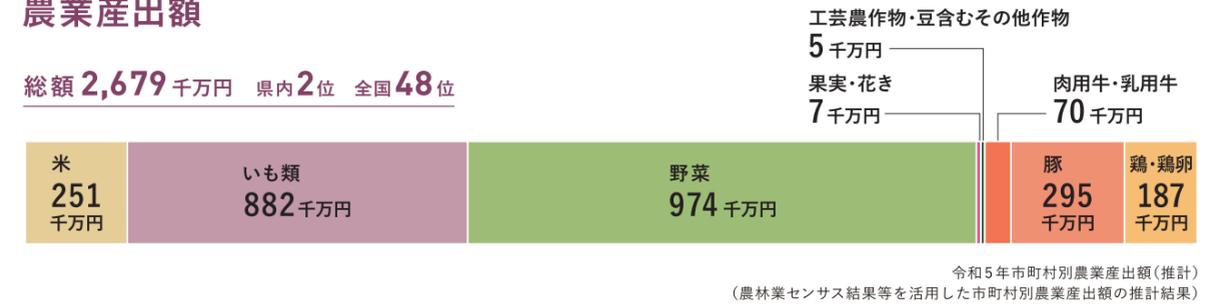
数字で見る、
行方の暮らしやすさ



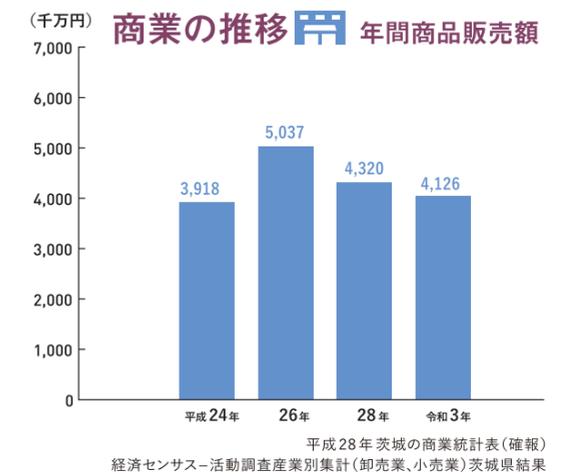
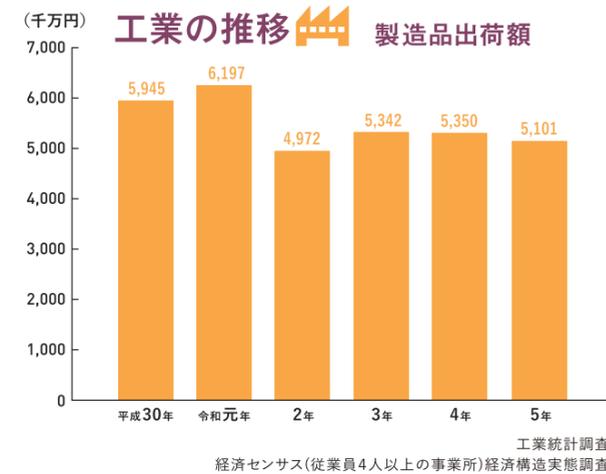
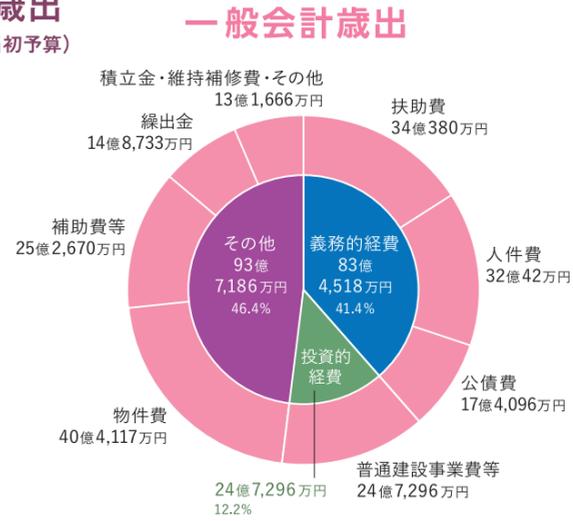
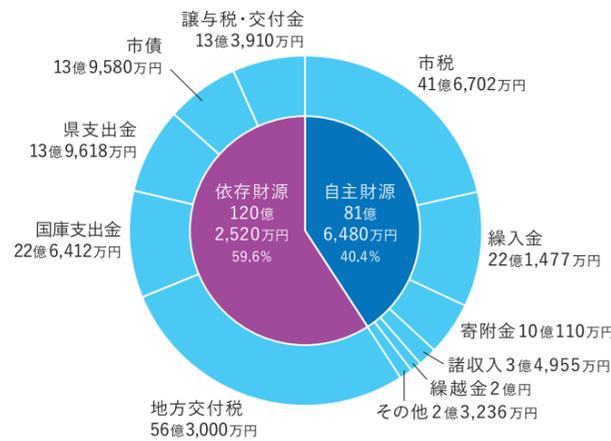
地目別土地面積



農業産出額



一般会計 歳入/歳出 (令和7年度当初予算)



行方市民憲章

平成20(2008)年9月2日制定

私たち行方市民は、湖と台地の恵みに感謝し、
歴史ある郷土に誇りと愛着をもち、
共に学び、共に汗して、ふれあいを大切に、
明るく住みよいまちをつくるため、
ここに憲章を定めます。

やさしい自然
かがやく人
わたしたちがつくる
魅力あるまち、行方市

市章

平成17(2005)年9月2日制定

行方市の頭文字「N」と、
霞ヶ浦の帆引き船の帆をモチーフにしたデザイン。
三つの帆は、麻生町・北浦町・玉造町を表しています。
赤は降りそそぐ太陽、青は霞ヶ浦と北浦、
黄緑は豊かな自然を象徴。
行方市の発展と、未来への飛躍を表現しています。



市の花 ヤマユリ(山百合)

ヤマユリは、香り高く優雅な花で、
環境の良い場所に自生します。
豊かな自然と共に生きる
行方市の姿を象徴する花です。



市の木 イチョウ(銀杏)

イチョウは美しい黄色の葉を見せる高木で、
力強く空へと伸びていきます。
活力と創造に満ちた
行方市の未来を象徴する木です。



市の鳥 シラサギ(白鷺)

シラサギは水辺を優雅に舞い、
仲間とともに暮らす鳥です。
人と人のつながりを大切にする
行方市を象徴しています。

それぞれ 平成18(2006)年12月1日制定

行方市のうた

わがふるさと

詞/行方市のうたアドバイザー
曲/吉岡弘行

われを育む 里山は
大地の恵みに 満ちあふる
朝日 湖に輝き
夕日 山の端 そめる
ああ ふるさと わが 希望

祭りばやしに 心おどり
風土記の里に 童の声はずむ
谷津田 風にそよぎ
稲穂 黄金に輝く
ああ ふるさと わが 安らぎ

古のなごり 受けつぎし
大空 はばたく 子どもの
夢を 育む 学舎は
拡く 心の 礎ぞ
ああ ふるさと ああ
わが未来 あー



マスコットキャラクター
なめりーミコット



行方市のうた
~わがふるさと~

こちらのQRコードを
読み込むと音楽が流
れます。急に音声がで
る場合がございます
のでご注意ください。



Namegata City Overview Map

Smiles that move the city.



なめがたリンク集

Namegata Information Links

All the many advantages
Namegata City has to offer
are also introduced on websites,
social media, and apps.



行方市 公式ホームページ



行方市ふるさと納税特設サイト



なめテレ オンデマンド



行方市観光協会



行方市 地域ポータルサイト



公式Instagram



なめがた
ブランド
戦略会議



行方市
観光協会

公式X



行方市



なめがた
ブランド
戦略会議

公式 Youtube



観光なめがた



なめがたお仕事情報局



行方市 空き家バンク



なめがた
ブランド
戦略会議



行方市 さつまいも課
特設サイト



MOVE

行方市市制施行20周年 市勢要覧

発行 茨城県 行方市 令和8(2026)年3月
編集 行方市 企画政策課
〒311-3892 茨城県行方市麻生1561-9
TEL0299-72-0811 FAX0299-72-2174
<https://www.city.namegata.ibaraki.jp>